



やくわえ

第23号

# 謹賀新年

昭和五十五年は

国旗布告一一〇年にあたり

本会は創立三十周年を

迎えます。

国旗「日の丸」は、白とアカとの二色の極めて簡素・素朴なハタであり、しかも表裏のない上下の区別もなく、日々新しき光を放つ太陽を形象した旗である。古来日本では、白色は清浄潔白を示すものとして尊とばれており、旗地の白は純白の曇りを知らぬ理知の光と、神聖・純潔・平和などの観念を表現し、赤の動に対しては静・温和を示す。中心のアカは、白の静的なものに対して動的な色とみられるが、誠に純なるものを赤誠とか、けがれの無い誠の心を赤心というように、人の真心すなわち愛情・誠心誠意・善行の美などを意味している。さらに日の丸の円は、始めなく終りなく、終始変わることはない円満な徳と、太陽であり天照大御神のような無限の包容力を示し、永遠の繁栄と平和な心を表わしている。日本心の理想像を示すマゴコロのシンボルである。

# 新春に思ふ

会長 川合玄紘

五十四年も大過なく過ぎ、いよいよ私達先輩がその意気と情熱で歩み築きあげた、東京都神道青年会の創立三十周年の記念すべき昭和五十五年を迎えます。

明けましておめでとうございませぬ。

国民待望の元号法制化が昨年の六月六日に成立した事は、文字通り神社界を始めとする国民運動の成果である事はいうまでもありません。占領軍の昭和二十五年元号廃止阻止運動に始まり、昭和四十三年の明治維新百年祭以来「一制一元」の法制化運動を推進してきた神社人にとっては誠に感銘の深いものがあり、皆様と共に喜び申し上げます。

しかしながら昨今の日本は、政治、経済、その他社会の各方面にわたって、非常な混乱の様相を呈しております。その中において、今期活動方針の三本の柱は第一に会員の積極的参加、第二に青少年の教化、第三に自己の研修でありました。青年会と云う「場」で体験した、経験と智慧を自らのお社へ

持ち帰り、充分生かして頂き度いと存じます。その他靖国神社国家護持問題、山口県自衛官奉斉取り下げ問題、又息は長い北方領土早期返還運動等、我々の上部組織である神青協、又友好諸団体との連絡を密に、神社庁の指導を頂きながら強力に推進してゆかなくてはなりません。

時あたかも、創立三十周年の記念すべき年であり、国旗布告一一〇年の嘉年にも当ります。私達は創立の精神に則り、斯界の次第を担う尖兵として、平常の会活動と並行して創立三十周年の記念事業等を一致協力、邁進してゆかなければなりません。

年頭に当り、会員諸兄の充分なる御活躍を祈念申し上げます、御挨拶と致します。

## 東京都神道青年会

### 創立三十周年記念大会趣意書

本年は、東京都神道青年会の創立三十周年の記念すべき年であり、時あたかも明治三年に日本の国旗が布告されて百十年の嘉年に当ります。私達神道青年が「民族精神の基盤たる神社神道の本義に徹し、永遠なる生命を旺にし、国家再興のため強力なる運動を展開せん」とする創立の精神に則り、祖国の弥栄のため、斯界の尖兵として時局の課題に処しつつ共に実践して来た意義は極めて深長なものであります。

しかしながら外にあっては我々を取りまく国際情勢は日毎に変貌し、内にあつては日本民族が培い育んで来た精神が失われつつある今こそ、伝統護持、斯道発展のため、我が民族が誇る敬神崇祖の美風を受け継ぎ伝えるべく「日の丸」の下に同志が一堂に会し、神道青年の結集を図り意義ある年とすべく創立三十周年の記念大会並に記念事業を推進する事となりました。

その意気と情熱との結集を以って、三十年の歩みと将来への希望溢れる発展とし感動ある大会と致したく、本会員はもとより関係各位の力強い御協力、温い御指導と御参加を衷心よりお願い申し上げます。

昭和五十五年一月十日

東京都神道青年会

会長 川合玄紘

創立三十周年記念事業実行委員会

委員長 小泉朋昭

# 三十周年の年に思ふ

実行委員長

小泉朋昭

明けましておめでとうございませす。

本年は東京都神道青年会にとつて創立三十年を迎えるという記念すべき年です。私が記念事業の実行委員長という大役をいたすことになり、責任の重大さに身の引き締まる思いで、新しい年を迎えました。

さて三十周年記念大会は七月十一日の開催が決定されております。この大会が記念事業の中心となるわけですが、他にも記念論文の募集、国旗、国歌の掲揚奉唱運動、ソフトボール大会と、記念事業の一つ一つが大きな成果を収め、七月十一日の大会を盛り上げていかねばなりません。役員・委員は元より会員皆様の事業推進の努力、そして先輩諸兄のお力添えもお願いするところでありませす。

三十年の間先輩の築いた道は、常に斯界の尖兵として幾多の成果を上げてきました。現役会員としての我々は三十周年という記念す

べき年に、改めて創立の精神と、先輩の歩んだ道筋を思い、より多くのバイタリティーを持ってきびしい局面を打破していかなければなりません。

本年は国旗布告一一〇年の嘉年に当ります。我々が目指している運動も大いに盛り上げる年であり、新しい第一歩、新しい三十一年目に進み出そうではありませんか。

創立三十周年を迎える新しい年の始めにあたり、関係各位の御指導と御協力をお願い申し上げます。第でございます。

## 記念事業概要

- 一、記念大会の開催  
昭和五十五年七月十一日(金)、明治記念館に於て記念式典、記念講演を実施する。
- 一、三十周年誌の刊行  
三十年の意義の徹底と会員の教養向上に寄与する記念冊子を作成し全会員に配布する。
- 一、記念論文  
論文を募集し神青会三十周年を振り返り、これからの青年神職のあり方を考える。
- 一、国旗掲揚推進運動  
国旗を掲げ、国歌を奉唱する運動を行い、国旗布告百十年を祝い、啓蒙運動を実施する。
- 一、ソフトボール大会の実施  
会員相互の親睦を深めるため親善試合を行う。  
(昭和五十五年七月八日の予定)

## 記念論文募集要項

- 一、論文題名 (次の中から一つを選んで下さい)  
(一)今後の青年神職は、いかにあるべきか。  
(二)国旗・国歌について。(意義・運動等について)  
(三)都神道青年会創立三十周年を迎えて。
- 一、原稿用紙(四百字詰) 五枚以上
- 一、締切日 昭和五十五年三月三十一日

座談会

# 新しい年に思う

新しい年を迎えて、世間では日本がいや世界全体がきびしい八十年代の幕明けと言っています。昨年は元号法制化が実現し、神社界も喜びの年でありました。きびしい世相の中で我々がすべきことはまだ山積みになされております。

東京都神道青年会は創立三十周年を迎えます。その記念事業も年明けとともに推進されていくことでしょう。

本日は本会の会長、副会長、議長、そして役員、委員の有志にお集りいただき、遠慮のないところでご意見を述べ合っていたいだきたいと思っております。

司会（千村）今日は新しい年昭和五十五年の始めに当り、我々がかかえている諸問題について大いに語っていききたいと思っております。

最初に我々の東京都神道青年会のことですが、最近各事業とも出席率が良く、活発な活動が行われているように思います。特に昨夏のソフトボール大会などは大変盛会に行われました。

### 明るいムードで活動

押見 事業部の部長となって出席者が多いことは大変喜ばしく感謝しています。会員相互の連携を図ろうと思ひ、先ず事業部の委員さんの内輪を固め、その輪を拡げて

○名以上であり、まだまだ出席率は低く、考えるべき問題はあります。○名以上です。山口 私も今期からの一人ですが、通知発送の数からすれば、出席者が少いのは驚きました。

大村 今年委員の改選期でありましたし、いつも一時的に多くなりません。問題はこれから、ああいう会であつたら何でも言えて、いつも出たいなあという状態にしていくのが、我々の務めだと思ひます。

山口 事業計画を立案する際に、委員の希望を出し合い、何をしたいかを見定めることが必要と思ひます。

八木 会員各々が出席されて何を心得て帰るか。個人個人の求めていものが違い、企画は大変でしょうが、潜在している会員を誘発する努力は確かに必要と思ひます。

### 新しい年に

司会 さて新年を迎えましたが、神青創立三十周年ということで、国旗掲揚推進運動も事業計画に入っております。

渡辺 戦後三十数年が経って我々が目指す日本とはかけ離れてきています。この現状で神社運営をす

### 座談会出席者

- 会長 川合玄紘
- 副会長 小泉朋昭
- 議長 植栗照之
- 総務部長 大村忠
- 事業部長 押見守康
- 総務部役員 香取邦彦
- 委員(教化部) 渡辺和寿
- 委員(教養部) 大石定道
- 委員(教養部) 山口直英
- 委員(広報部) 八木正明
- 委員(広報部) 福田正光
- 司会(広報部長) 千村義和

教育の正常化を

福田 日本は繁栄しています。しかし精神的なもので失ったものは大きいと思います。何がそうさせたのか。教育です。文化や歴史を併的にみる教育です。

渡辺 日本の成り立ちがどうであったか。それが根本理念にある教育がなされなければ……。それがないので、国旗も国歌も一部だけの人の運動になります。

司会 日教組の活躍が新聞で見限り目立っていますし、天皇を中心とした日本などには、真向からの反対であります。教育の現場はそれほど偏っているのでしょうか。

小泉 同窓会を何年前から担当しておりますが、現場の先生方はそれほどとは思いません。学校の諸行事には日の丸や君が代は勿論おはやしをやりたりすることもありません。先生の中には、おはやしを生徒に教えてくださると頼む方もおります。

八木 私もPTAの立場で学校に参与しておりますが、日本の伝統や精神は忘れられていないと思います。

川合 神社本庁でも教育正常化運動を実施しようということになり

運動方針を立てました。東京でも教化委員会のメインテーマになりました。これは日教組を相手として憲法改正問題にも発展しますし、大きな運動の展開が必要です。

八木 先生の中でも活動家は極少であり、学芸会で神話を取り上げた例もあります。素盞雄命が出てきました。何の批判もなく、演じている子供も親も先生も素直に受けとられたようです。

我々としては今こそ国旗掲揚、国歌奉唱の運動に立ち上る時だと思えます。

大石 最近の先生はあまり日教組に入らないと聞いています。

川合 戦後生れが三十四、五才になります。その人達が日本の文化や伝統をどう思っているのか。一世一元の問題をみても、八十パーセント以上が賛成しています。我々としてはその気持を育てていかねばと思えます。

小泉 こういう問題は先ず自らの身近から考えるべきだと思います。自分が氏子と接している時、自らが日本の良い文化や伝統を守っていることを態度で示し、少しずつ輪を拡げていくべきだと思います。

川合 私もそう思います。大きく日教組相手に取り組もうとしても

簡単にいくものではありません。

司会 PTAには共産党や他の宗教団体が役員として入り、牛耳ろうという姿勢があると聞いたことがあります。

八木 それは確かにあります。また一部の先生と一語に「良い本を読む会」などと称した会を持ち、他に啓蒙しようということもあります。我々はおもっと教育の場に入り込む必要があると思えます。

植栗 私も同窓会の役員ですが、学校のことはどうしても女房まかせになりがちです。きびしい状況を聞きますと考えさせられます。

八木 地鎮祭に行つて「あれPTAのおじさんだよ」と言われたり、学校で「お祭りにくる人だよ」と言われるようになれば、子供達も親近感を感じるようになります。

見直されてきた

家族制度

司会 学校教育もさることながら家庭教育が昔のようになされない。子供はすくすく育っていても、何か欠けているように思います。

渡辺 日本はタテ型の社会です。親から子へそして孫へ、体験的に伝統の受け継ぎがされてきました。それが核家族化のためになくなっ

てしまいました。

山口 家族内ですぐ話し合いができる。家の構造からみてもそれができないし、忘れられてきているのではないか。若い家族だけで育ってきた子供は、宗教心というものを持てるかどうか疑問に思えます。

大村 神社は日本の家族制度の上

神社本庁

教育正常化運動方針

一、皇室を敬愛し、民族の連帯感を強める教育を推進すること。

一、国旗・国歌を尊重し、愛国心を培う教育を推進すること。

一、敬神崇祖の念を涵養し宗教情操教育を推進すること。

一、教育勅語を奉戴し、国民道徳を昂める教育を推進すること。

に立って発展してきました。神様のことこそ、親から子へ体で教えるべきことです。

最近には核家族の反省があり、見直されてきたと思います。外国の研究者が、日本の家族制度を調査したり研究したりしている例もあるようです。

**司会** きびしい意見がかなり出ましたが、言わゆる八十年代の最初の年であります。石油の高値からくる経済不安等、社会は何となく落ち着かない感じがします。

#### 危機意識を

**植栗** 日本の現状は大変にきびしいと思います。特に商売をしている人々は必至の思いだろうと想像します。お祭りをすればご奉納がある。今後はそう安易に考えてはいけなないと思います。

**川合** 神社は隆盛しているように思えますが、身近なこと一つ考えてみても問題は山積みされています。大麻の頒布率にしても、かなり低い数字だと思います。

**植栗** 東京だけを考えずに、日本全体を見れば、神社が隆盛しているとは言えないと思います。過疎に悩む村の鎮守様のことも我々は見なければいけません。

**川合** これからはより以上に、講や氏青そして崇敬者組織の組織作りが必要であるはずで、不特定多数の氏子という考え方は甘いと思います。

**大石** 私のお社はまだ組織作りまではいかなのですが、小中学生に対してはボーイスカウトを通じて、青年にはお神輿の会を通じて、青年にはお神輿の会を通じて、というように、連帯感を持つよう話し合いをするよう努めています。

**福田** よりきめの細かい神社運営が求められると思います。例えば氏子を個別的に訪問して祭事にお誘いするとか、役所で名簿を作り通知するとか。

#### 参拝者に喜ばれる

##### 何かを

**香取** 私も初宮詣の記録をもとに七五三の案内をするようにしました。少しずつではありますが、効果が出ています。

**押見** いかによければ参拝の方に喜んでいただけるか、常にそれを考えています。参拝された方が、「来て良かった。」と思われたい。来て良かったら良いかと努力しています。参拝された方に当日のうちに御礼状を投函することにしていきますし、初宮詣の一年後にお誕生カードを

出しています。

**香取** そのようなことは先方に必ず喜んでいただけません。私の七五三の案内も、気持ち良くお詣りに来られるという感じが出てきて、大変良かったと思っています。

**司会** きめ細かい活動、そして組織作りは必要と思っただけでも、なかなかできません。ご意見の中にも見習うべき点がたくさんあるように思われます。我々は勇気を持って難局を打破しなければなりません。身近なところ、自らの神社に参拝者に喜んでいただける雰囲気を作ることにもその糸口があるように思われます。

#### 神青で友を得る

**植栗** 神職さんにはまだまだ一人だけで運営している方が多いと思います。自らの神社のことも一人ぼっちでは容易にできません。まして難局を打破するためには、神青という仲間集団の中で、親身となる友達を得てほしいと思います。

**大村** どんな会においても人集め動員というのは難問題になっています。最初のうちは集りが良くても、だんだん減っていくというの現状です。しかし区によっては若い神職の集まりが持たれていると

聞きますし、神青にも輪が少しずつ芽生えてきて、明るいムードで活動されるようになったと思います。

**小泉** 正会員は確かに一六〇名余りですが、実際に出席の可能な方は何人位でしょうか。あまり一六〇という数にこだわってはいけな

**植栗** 同じ職業を持つ仲間の集りで、友を得ることが神青の魅力の要諦です。良い友の輪を作っていくには、一人一人の将来も神青の将来も大きく広がっていくと思えます。出席されればそれは必ずできることです。会員は出席しようという気持ちを持ってほしいと思います。

**司会** 確かに会員が求めていることをうまく企画すれば、出席者は多いようです。企画する方は大変ですが、その努力は必要です。

**川合** 各部長さんが各委員さんを把握してもらおう。そして各委員さんに仕事を持ってもらおう。それが出席者を多くする第一歩だと思います。

**渡辺** 我々は平素の勉強がとかくおろそかになってしまっています。教養を高めるための企画を持っていくのは、有難いことです。そう

いうものはたとえ出席者が少くても、続けてほしいと思います。司会（千村）長い時間ありがとうございます。見もあり、広報部としては会員の皆さんに神青の現況、そして社界の抱える問題など、その糸口を伝えることができました。教養部や教化部でもっと突っ込んだ話し合いが持たれば、掘り下げた議論もできるかと思えます。今日は年始に当り問題の一端を話し合っていたいただきました。会員皆様の新年の弥栄を祈念してこの座談会を閉じたいと思います。



### 神道青年会 最近のひと

◇御結婚おめでとうございます。台東区小野照崎神社禰宜小野貴嗣君は、中 尚子さんとの婚約整い去る十二月二日小野照崎神社に於て、穴八幡神社禰宜斎藤成徳様ご夫妻のご媒酌により、結婚式を挙行されました。

新郎の父小野亮哉氏は当会の二代目会長をなさり、新郎貴嗣君も教化部・事業部の委員として活躍されており、帝国ホテルでの披露宴では当会の先輩また現役が多数お二人のお祝いに出席された。

新婦尚子さんは鼓の名手であり小野雅楽会を背負って立つ新郎貴嗣君ともども、音楽の道での活躍も期待されます。

◇五十四年も押しつまった十二月二十日異例の神青委員会を開く。三十周年記念事業に熱心な討議が行われた。話題の一つは論文がどのくらい集まるか。広く社界の将来のためにも、力強くたくさんの応募があつてほしいもの。

◇都氏子青年協議会では、神青会との懇談を兼ねて、去る十月二十七日熱海暖海荘で懇親旅行会を開催した。氏青協・神青が裸になつ

て語り合おうということ、三十人余りが出席して一夜を過ごした。宴会では氏青協の金子会長が自

ら司会をし、痴楽の落語あり、加山雄三の歌あり、ひょっこりひょうたん島が動き出したりして、文字通りの楽しい夜となった。

◇神青の恒例忘年会は去る十二月四日、熱海のホテル池田に於て、諸先輩にも参加をいただいて、賑かに行われた。

神青も若い人達が増えて、宴会の雰囲気が変わりました。熱海の夜もいつまでも果てしなく、灯が消えません。

◇十二月二日府中刑務所に於て大板が執行された。当会から教化部の北川憲史氏、長岡式部氏、細野政和氏が助務された。ご苦労様でした。例年以上の九百人の受刑者が参列されたことである。

◇氏青協の忘年会は十二月十日山王日枝神社に於て開催された。都内単位氏青会より七十名余りが出席され、盛会であった。

◇社団法人国旗協会（会長副島広之明治神宮権宮司）では国旗布告一一〇年記念式典を左記により斎行する。明治三年一月二十七日、

日の丸が国旗として明治政府から布告されてから満一一〇年の記念

の日であり、神青会員の方々も多数参加していただきたい。

記  
一、日時

一月二十七日（日）  
午後一時三十分

一、場所  
明治神宮会館

第一部 式典  
第二部 記念講演

◇二月十一日、今年もまた建国記念の日奉祝式典が行われます。午後一時より明治神宮会館に於て式典。その前には、神宮外苑までのコースでパレードがあります。こちらの方もご参加を。

◇やくわえ新年号をお届けします。新年を迎えて、日本は平和な世相にあふれています。各社頭も日本の平和を象徴するような華やかさと賑わいであったと報じられています。しかし世界に目を向けますと、ソ連の動き、難民の問題、石油戦略と、大変にきびしい状態になりました。一つ一つに日本人として神道人としての考え方を持たなければと思えます。

三十周年の新しい年は、神青にとって飛躍の年でありますように。  
(千村)

## 八十年代って何！

赤城神社禰宜

風山栄雄

アメリカでは、クリスマス前  
に、新聞、ジャーナリズムがこぞ  
って『八十年代って何？』という  
テーマを取り上げることが大流行  
しています。私は昨年十月もう  
一方の仕事としているFM番組の  
仕事でアメリカを訪れる機会を得  
ました。科学、文化など全ての点  
で世界の最先端に行くアメリカが  
新しい年を迎えるに当たってこの  
始末です。

FM番組の制作でも、これまた  
一九七〇年代の総まとめから、八  
十年代の音楽は何かということの  
探究に余念がありません。ポピュ  
ラー音楽の流行という面から見  
ると、アメリカと日本はとても親し  
い関係にあるためかも知れません。  
そのポップスは、多くの人の予  
測では八十年代にはいると、M・  
O・Rとかアダルト・コンテンポ  
ラリーと呼ばれる、落ち着いて、  
しっとりして、聴き易く、それで  
いてリズム感や音作りは最新の装  
いをもった音楽が主流を占めるだ  
ろうといわれています。アン・マ

レー、ケニー・ロジャース、バリ  
ー・マニロウといった、七十年代  
の終わりに注目されたシンガーた  
ちは、そろって語りかけるような  
ヴォーカルが売り物で、生活のい  
らだちや、世の中の不安を洗い流  
してくるかのようです。このよ  
うに音楽の世界では、スローで、  
しっとりときかせる歌がはやる時  
は、世の中が不況なのだといわれ  
ています。

石油危機以来、インフレが慢性  
化した日本だけでなく、アメリカ  
におけるインフレもひどいようで、  
ガソリン代などは三年前の約二倍  
になってしまいました。これから  
のことから世界の多くの人は、  
生活面での節約をせまられており、  
合理的に物事を考えるアメリカ式  
の生活方式に魅力があるようです。  
実際、若者たちや、若夫婦たちは  
アメリカ式ライフスタイルを好み、  
ファッション雑誌やブティック、  
デパートなどもそれらのヤング層  
を狙って商戦を展開しています。  
ところが社会の別の面では、全

国的又地域的に特色ある、例祭、  
大祭（なぜならば、宗教としての  
神道が実生活に結びついている点  
で最大のものと考えています。）  
が、あちこちで話題を巻き起こし

テレビや新聞など広くマスコミに  
トピックスとしてとり上げられた  
り、また若夫婦も子供のための初  
宮詣りや七・五・三をかかさず行  
っているようですし、アメリカの  
例でも、著名な教会のミサやクリ  
スマスの様子をテレビ中継してい  
るのをよく見かけました。この十  
余年、新しい宗教が起って、非常  
な勢いで多数の信者を獲得してい  
るといふ事実さえあります。この  
状態を冷静に考えてみると、単な  
るお祭りさわぎというだけでなく  
若い人々の心の中には、祭りに象  
徴される神道を敬うという気持ちが  
今も、いや今だからこそしっかり  
と根ざしているということが言え  
るのではないのでしょうか。

科学は物理的に生活を改善して  
くれています。メンタルな部分  
では、メンタルな思想にすぎん  
で、いくというのが人間普通の姿だか  
らです。だから科学が進歩すれば  
する程メンタルな思想はもてはや  
され、そのあらわれの典型といえ  
るのが映画のSF超大作ブームや

星占い、占星術ブームなどでしょ  
う。

そのような中で、ただただ、手  
をこまねいていると、神社は単な  
る時代の遺物となってしまうかも  
しれませんし、若い人々がどんど  
ん新しいライフスタイルをとり入  
れていく中で、私たち自身も新し  
いライフスタイルの中に意識して  
入っていかなくてはと残りされて  
しまうこと必至です。

八十年代は、さらに世の中が多  
様化、複雑化していきそうです。  
生活面であるいは政治、社会面で  
国際的な流れの渦中に身をおく日  
本です。神社も全ての点でクロス  
オーバーした世界を体験し、もっ  
ともっと若い父親、母親、若者た  
ちに見直される神道であってほし  
いと考えるこのごろです。

昭和五十五年一月一日

東京都神道青年会

東京都港区三赤坂二二二一三

東京都神社庁内

電話(408)二三六一・九二七七